

国語科 1 学年の学習

1 学習の目標

- (1) 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決めて集めた材料を整理し、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す能力、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞く能力、話題や展開を捉えて話し合う能力を身につけさせるとともに、話したり聞いたりして自分の考えを深めようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、根拠を明確にしながら、段落の役割などを意識して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
- (3) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして読む能力を身に付けさせるとともに、進んで読書をする態度を育てる。

2 学習内容

月	単元名	目 標	主 な 教 材 名
4	言葉に出会うために	表現の豊かさを味わい、語句の意味を的確に捉える	詩「朝のリレー」 詩「野原はうたう」
5	1 学びをひらく	いろいろな言葉にふれながら、学習の見通しをもつ	物語「シンシュン」 作文「わかりやすく説明する」 漢字「漢字の組み立てと部首」
6	2 新しい視点へ	説明の工夫を捉えながら、ものの見方を広げる	説明「ダイコンは大きな根？」 説明「ちょっと立ち止まって」 文法「言葉のまとまりを考えよう」
7	〔硬筆〕楷書の書き方を理解し、筆順・字形を確かめて書く。		
	3 言葉に立ち止まる	豊かな表現にふれ、言葉のもつ力を考える	詩「詩の世界」 説明「比喻で広がる言葉の世界」 言葉「指示する語句と接続する語句」
9	4 心の動き	言葉を通して、人の思いに寄りそう	物語「大人になれなかった弟たちに…」 小説「星の花が降るころに」 言葉「方言と共通語」 漢字「漢字の音訓」
10	5 筋道を立てて	根拠を明らかにしながら伝え合う	記録「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 詩「大阿蘇」
11	6 いにしへの心に触れる	古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える	古文「いろは歌」「古典の世界」 「蓬莱の玉の枝」 漢文「今に生きる言葉」
12	7 価値を見いだす	発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる	意見「『不便』の価値を見つめ直す」 文法「言葉の関係を考えよう」
	〔書き初め〕楷書と仮名の調和を理解して、作品を仕上げる。		
1 2 3	8 自分をみつめる	作品や生活と向き合い、ものの見方を深める	小説「少年の日の思い出」 文法「単語の性質を見つけよう」 随筆「随筆二編」 言葉「さまざまな表現技法」 詩「さくらの はなびら」

3 評価の方法

次の3つの観点を3段階（ABC）で評価し、その結果を総合的に判断して5段階（54321）の評定を決定します。

国語科の3つの観点	根拠となる学習内容
知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項） （情報の扱い方に関する事項） （我が国の言語文化に関する事項）	定期テストの結果・小テスト・授業への取り組み
思考力・判断力・表現力等 （話すこと・聞くこと）（書くこと）（読むこと）	定期テストの結果・スピーチ・作文課題等
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み・提出物の内容・定期テストの結果

4 授業の約束

- ①提出物の期限を守る。 ②言葉遣い、文字を丁寧に正しく。 ③積極的に自分の意見を発表する。